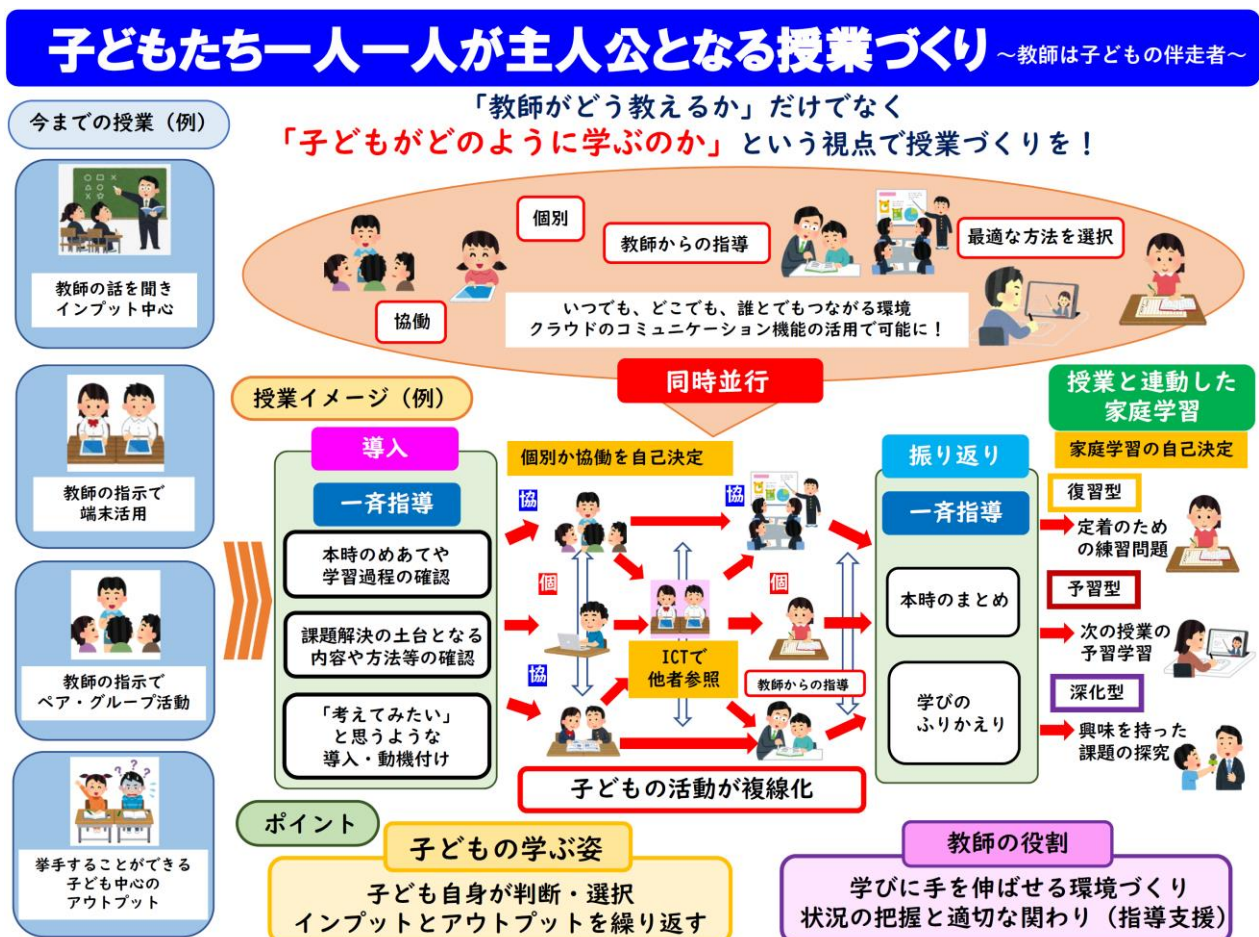


津市 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末を始めとするICT機器を効果的に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた「子どもたち一人一人が主人公となる授業づくり」を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

具体的には、これまでの学びとICTを効果的に組み合わせた新しい時代の教育環境のもと、自分の力や可能性を最大限に伸ばしていけるように、「教師がどう教えるか」だけでなく「子どもがどのように学ぶのか」という視点で授業づくりを目指し、授業の中で子どもたちは個別学習か協働学習かを自己決定したり、必要に応じてICTで他者参照をしたりして、子どもの活動が複線化するように学びに手を伸ばせる環境づくりを行う。



2 GIGA第1期の総括

津市GIGAスクール構想の実現 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざして～

個別最適な学び

生涯にわたって学び続けようとする意欲、個性や能力を生かした学びによる確かな資質・能力の育成

一斉学習

～双方向型一斉授業の実現～



◆タブレット端末を活用し、リアルタイムで児童生徒の様子等を把握しながら進める学び

個別学習

～ニーズや学習状況に応じた個別学習の実現～



◆デジタル教材を活用した一人一人の教育的ニーズや理解度等、個に応じた学び

協働学習

～各自の考え等を共有しながら学び合う授業の実現～



◆授業支援ツールを活用し、児童生徒どうしが意見を交換し、お互いの学びを高め、深める学び

家庭学習

～学校の授業と家庭の学習との連携した学びの実現～



◆授業支援ツールやデジタル教材を活用し、学校の授業と家庭の学習を連携する学び

多様な価値観や考えに触れることで、協働しながら問題発見や問題解決に挑む資質・能力の育成

協働的な学び



すぐにでも、どの教科でも
タブレット端末を学びの文房具に

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けた授業改善



情報社会に参加する態度
情報活用能力の育成

学びを進める学習ツール

津市e-Learningポータル

各学校コース、教育委員会コースのコンテンツ（学習動画、ワークシート等）を活用します。個々の学習に対するフィードバック機能や、ポートフォリオ機能を使うことで学びが深まります。

ロイロノート・スクール児童生徒の思考を可視化し、共有するための学習支援アプリを使って、授業のイメージを転換します。特にシンキングツールの活用によって、主体的・対話的で深い学びを実現させます。

みんなの学習クラブ教師及び児童生徒が、インターネット上で必要な学習用プリントを作成し、活用します。マルチメディア解説動画や解答ページを使って、個別学習を充実させます。

デジタル教科書

拡大表示、書き込み、保存・表示、音声読み上げ、背景色・文字色の変更、反転、ルビ等の機能を使って、より効果的な学習を展開させます。

ZOOMを活用したオンライン学習

臨時休業、自宅待機等の非常時や、遠隔地の学校との交流、不登校児童生徒など家庭にいないが、教師や友達とつながって学習を進めます。



津市教育振興ビジョン（後期基本計画）P. 8

本市では、津市教育振興ビジョンに基づき、令和3年度の1人1台端末使用開始から、以下の5つを学習ツールとして位置づけ、すぐにでも、どの教科でも活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできた。

(1) 津市e-Learningポータル

各学校コース、教育委員会コースのコンテンツ（学習動画、ワークシート等）、個々の学習に対するフィードバック機能、及びポートフォリオ機能を活用することで、子どもの学びが深まり、教員の負担軽減につながった。

(2) ロイロノート・スクール

シンキングツール等を活用し児童生徒の思考を可視化するとともに、学習支援アプリを使って情報を共有（他者参照）するなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向け授業づくりを促進させた。

(3) みんなの学習クラブ

教員及び児童生徒が、インターネット上で必要な学習用プリントを作成・活用するとともに、解説動画や解答ページを効果的に活用することにより個別学習の充実を図

った。

(4) デジタル教科書

拡大表示、書き込み、保存・表示、音声読み上げ、背景色・文字色の変更、反転、ルビ等の機能を使って、より効果的な学習を展開することができるようになった。

(5) Z o o mを活用したオンライン学習

臨時休業、自宅待機等の非常時や、遠隔地の学校との交流、不登校児童生徒など家庭にしながら、教師や友だちとつながって学習を進めた。

また、大型テレビに自分の考えや友だちと協働した学びの成果を映し出して発表するなど、情報共有・情報発信する場面等において、効果的に活用する授業づくりを進めた。

これらの結果として、令和6年度全国・学力学習状況調査において、小学校5年生及び中学校2年生までに受けた授業で、P C・タブレット端末等のI C T機器を週3回以上使用したと回答した子どもの割合が全国平均よりも20ポイント以上高い結果となるなど、市内すべての学校において、I C T機器を活用した学習が充実している状況である。

(令和6年度全国学力・学習状況調査より) 小学校5年生及び中学校2年生までに受けた授業 で、P C・タブレット端末等のI C T機器を週3 回以上使用したと回答した子どもの割合(%)		津市	三重県	全国	全国差
	小学校	79. 8	64. 7	59. 5	20. 3
	中学校	89. 1	81. 4	64. 4	24. 7

一方で、情報活用能力の育成については、今後授業改善の中で取り組むべき課題である。「津市G I G Aスクール構想実現のための手引き」に基づき、全ての教育活動を通じて、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現等の学習の基盤となる資質・能力を育成し、それらの力が発揮できる子どもたちが主体となる授業づくりを進める。

3 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用を進めるために

5つの学習ツールの活用

津市e-L e a r n i n gポータル、ロイロノート・スクール、みんなの学習クラブ、デジタル教科書、Z o o mの5つの学習ツールを、子どもが自ら調べる場面、自分の考えをまとめて、発表・表現する場面、教師と子どもがやりとりをする場面、子ども同士がやりとりをする場面、子どもが自分の学び方、理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面等で引き続き効果的に活用する。主体的・対話的で深い学びの実現のためには、全てをデジタルにするのではなく、デジタルのよいところと、紙媒体のよいところを見極めながら、両輪で授業改善を進める。授業改善は、これまでと同様に指導主事も学校に入り、効果的な活用についての支援を行う。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために

ア 情報活用能力の育成に向けた取組

「津市G I G Aスクール構想実現のための手引き」を基に、より一層情報活用能力を育むための授業づくりができるように学校にとっての拠り所となるリーフレットを作成し、周知する。また、指導主事が学校訪問し、校内研修等でリーフレットを活用し、情報活用能力の育成について学ぶ機会を設定する。

イ 他者参照を活用できる教員の育成

「子どもがどのように学ぶのか」という視点で授業づくりを進める中で、子どもの活動が複線化していくために、また教員が子どもの学びを見取るために有効である他者参照を全ての教員が活用できるよう、情報教育推進委員研修会や情報教育推進教員育成研修会等、本市主催の様々な研修会で学ぶ機会を設定する。

(3) 全ての子どもの学びの保障のために

ア 津市教育支援センターへの1人1台端末の配置

津市教育支援センター「ほほえみ教室」及び「ふれあい教室」に通う児童生徒が1人1台端末を活用できるよう引き続き必要な台数分を配置する。

イ 遠隔による学習支援

不登校児童生徒や不登校傾向児童生徒等に対し、Z o o mによる遠隔授業や、ロイロノート・スクールを活用した遠隔による学習を引き続き実施する。

ウ 日本語教育における学習支援

外国につながる児童生徒が分からない日本語があった場合に、1人1台端末を活用して、その日本語のイラストや写真、動画などを即時に検索し理解につなげる。また、日本語での理解が難しい課題を、1人1台端末を活用して図で表したり、動作化して視覚的に捉えさせたりすることで理解できるようにする。

エ 子どもの実態に応じたアプリの提供

市内全ての1人1台端末に、一律同じアプリのみを提供するのではなく、障がいのある児童生徒や外国につながる児童生徒等、子どもの実態に応じて必要となるデジタル上の拡大教科書やルビ振りのアプリ及び翻訳アプリ等のインストールを引き続き行う。

オ 予備端末の整備

子どもたちの学びを止めないよう破損や故障が起こったときに、すぐに代替機で学習できるよう引き続き各学校に予備端末を整備する。